

一般社団法人 日本化学工業協会

レスポンシブル・ケア ニュース

No.112 2026 春夏季号



レスポンシブル・ケア
安全とサステナビリティの推進



Index

- [2](#) 5月26日 日化協 第35回 定時総会
- [3](#) 新会長挨拶
GX推進により、日本化学産業の基盤を強化し、
持続可能な社会の実現に貢献
一般社団法人 日本化学工業協会会長 橋本 修
- [4](#) 日化協3賞受賞各社の紹介
- [5](#) 第50回 日化協安全表彰受賞事業所の紹介
- [6](#) 第20回 日化協レスポンシブル・ケア(RC)賞
- [7](#) 第21回 RC賞募集要項(2026年)
- [8](#) from Members【第95回】
東ソー株式会社 環境保安・品質保証部担当役員
環境保安・品質保証部長 小田 誠さん
- [10](#) RCの現場を訪ねて
花王株式会社 小田原工場
荒川化学工業株式会社 小名浜工場
- [12](#) 2025年度 地域対話
- [14](#) 2025年度 東京産業安全塾
- [15](#) レスポンシブル・ケアリーダーシップグループ春季会議
レスポンシブル・ケアロゴマークの更新に関して
- [16](#) RC委員会だより

5月26日 日化協 第35回 定時総会

5月26日(火)、第35回日化協定時総会が開催されました。総会は、正会員数258名に対し、委任状を含め181名の出席の下で開催されました。

岩田会長が議長を務め、下記議案について審議が行われ、いずれも異議なく原案の通り承認されました。

議案

1. 報告事項 2025年度事業報告及び決算報告の件
2. 審議事項
 - 第1号議案 2026年度事業計画案及び収支予算案の件
 - 第2号議案 理事25名選任の件
 - 第3号議案 監事2名選任の件

開会にあたり、議長である岩田会長より、次のような退任のご挨拶がありました。2024年に会長に就任して以来、「GXの推進」「国際協調の促進」「安全・化学品管理の取り組みの着実な実施」の3点を重点テーマとして、日本の化学産業における競争力の維持・向上に向けて諸施策を講じてまいりました。特にGX関連では「カーボンニュートラル、循環型社会の実現に向けた日本の化学産業のスタンス」を策定・公表したほか、「化学品のリサイクル率確認登録制度」等の取り組みを進展させました。日化協では引き続き、日本の化学産業の競争力強化、



サステナブルな社会の構築に向けて尽力してまいりますので、今後とも一層のご理解・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

議事

会議開催に先立ち、議長より、日化協独占禁止法遵守ガイドラインを確認し、適法で会議を運営することが宣言されました。

報告事項 2025年度事業報告及び決算報告の件

進藤専務理事が、2025年度事業報告及び決算報告の各案は、5月13日実施の監事による監査を経て、5月11日開催の総合運営委員会、5月13日開催の審議委員会、5月15日開催の理事会において、それぞれ承認を得ている旨を資料に基づき説明しました。引き続き、監事を代表して高村監事が、5月13日に開催した監事会において、2025年度事業報告書、及び決算報告について監査をした結果、内容はいずれも正確であり、また経費の支出も適正かつ妥当であったことを報告しました。

第1号議案 2026年度事業計画案及び収支予算案の件

進藤専務理事が、2026年度事業計画及び収支予算の各案は、3月16日開催の総合運営委員会、3月18日開催の審議委員会、3月19日開催の理事会において、それぞれ承認を得て提案されたものである旨を報告し、資料に基づき、内容について説明しました。

その後、議長が本件原案どおり承認願いたい旨を議場に諮ったところ、全員異議なく原案どおり可決承認されました。

第2号議案 理事25名選任の件

第3号議案 監事2名選任の件

議長が、理事25名、及び監事2名の選任につき、原案通り承認願いたい旨を議場に諮り、全員異議なく、理事25名、及び監事2名それぞれの選任が原案どおり可決承認されました。

各理事・監事につきましては、日化協HPをご参照ください。

<https://www.nikkakyo.org/about/membership>



新会長挨拶

GX推進により 日本化学産業の基盤を強化し、 持続可能な社会の実現に貢献

一般社団法人 日本化学工業協会
会長 橋本 修

現在、化学産業のみならず、日本経済を取り巻く環境は、地政学・エネルギー・経済の各方面で極めて厳しい局面にあります。このような不確実性の高い環境下、化学産業は社会に不可欠な製品を安定的に供給するエッセンシャル産業として、新技術を取り込みながら、さまざまな課題に的確に対応していくことがこれまで以上に求められております。

日化協と致しましては、このような状況を踏まえ、次の三つの取り組みを重点的に推進してまいります。

1 GX推進による日本の化学産業の 基盤強化

日化協は、2025年9月に公表した「カーボンニュートラル、循環型社会の実現に向けた日本の化学産業のスタンス」において、化学産業を社会全体の変革と基盤を支える「ソリューションプロバイダー」と位置づけ、カーボンニュートラルと循環型社会の実現を持続的な成長と国際競争力強化のための「戦略的機会」と捉えております。

このスタンスに基づき、2026年4月に本格導入された政府によるGXの市場創造に向けた「温室効果ガス排出量取引制度（GX-ETS）」について、化学業界における円滑な導入・運用を支援してまいります。

さらに、リサイクル品の社会認知を向上させ、化学品の循環利用に関して日本国内での社会実装を早期に実現することを目的とした「化学品のリサイクル率確認登録制度」は、トライアル運用を開始しました。さらなる制度の認知向上を図ってまいります。

2 国際社会とのコミュニケーション強化

近年は、地政学的な要因等を背景としたサプライチェーンの分断が顕著になっております。国際的なコミュニケーションの強化を通じて相互理解を一層深め、分断を連携へと転換し、国際社会が一体となって課題に取り組むことの重要性が益々高まっています。

日化協では、こうした流れを踏まえ、国際化学工業協会協議会（ICCA）での活動を中心に諸外国の業界団体との連携を強化して、日本の化学産業のプレゼンスを高めることを支援してまいります。

具体的には、プラスチック汚染に関する国際条約の策定に向けた政府間交渉委員会（INC）が継続される中、ICCAの取り組みへの積極的な参加、化学物質管理におけるグローバル枠組みであるGFC（Global Framework on Chemicals）の達成に向けた積極的な取り組みを継続してまいります。

3 エッセンシャル産業としての安全・安定 操業・化学品管理の着実な実施

安全・安定操業と化学品管理は、「エッセンシャル産業」である化学産業にとって最優先課題であり、安全な製品を安定的に供給する責任を担っています。

日化協では、企業の安全・安定操業のために、デジタル技術活用によるスマート保安の導入を支援し、労働災害撲滅に向けても「安全表彰」をはじめ、会員会社のグッドプラクティスを共有してまいります。また、レスポンシブル・ケアの理念のもと化学品のライフサイクルを通じて、サプライチェーン全体での連携を図ります。日化協が長年にわたって培ってきたリスクベースの考え方などの知見を活かし、化学品管理の強化を支援してまいります。

これらの三つの取り組みを進めることにより、持続可能な社会の実現に貢献できるものと考えております。

化学産業はこれまで、社会のあらゆるところで生活の快適さや利便性を支えるエッセンシャル産業として、社会課題の解決に主要な役割と責任を担ってまいりました。このことを踏まえ、不確実性が高まる時代においても、化学産業は試行錯誤を重ねながら新たな技術を創出し、価値を提供していくものと確信しております。

化学産業の更なる発展のため尽力してまいりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

日化協3賞受賞各社の紹介



5月26日(火)、日化協安全表彰(安全最優秀賞・安全優秀賞・安全優秀特別賞)、日化協技術賞(総合賞・技術特別賞・環境技術賞)、日化協レスポンシブル・ケア賞(RC大賞・RC審査員特別賞・RC優秀賞)の本年度受賞者が決定しました。各賞の受賞者は以下の通りです。各受賞内容の詳細に関しては、日化協プレスリリース<https://www.nikkakyo.org/node/1283>をご参照ください。

第50回 日化協 安全表彰

【安全最優秀賞】

- ・ 荒川化学工業株式会社 小名浜工場

【安全優秀賞】

- ・ サンレックス工業株式会社
- ・ 三井化学株式会社 徳山分工場
- ・ 株式会社レゾナック 五井事業所(野田)

【安全優秀特別賞】

- ・ 旭化成ファインケム株式会社 大阪開発センター



安全最優秀賞を受賞した荒川化学工業株小名浜工場の皆様

第58回 日化協 技術賞

【総合賞】

- ・ 花王株式会社
「嗅覚受容体の網羅的な評価系「ScentVista 400®」の開発」

【技術特別賞】

- ・ 東ソー株式会社
「UDM技術による高耐熱酸化物系CMC(Oxyera®)の創出」

【環境技術賞】

- ・ 花王株式会社
「鋳造用無機コーテッドサンド『Kao ICS』の開発」



総合賞を受賞した花王株の皆様

第20回 日化協レスポンシブル・ケア(RC)賞

【RC大賞】

- ・ 花王ロジスティクス株式会社
「ドライバーが安心安全に働ける持続可能な物流をめざして」

【RC審査員特別賞】

- ・ 住友共同電力株式会社
「工事安全パトロールにおける笑顔のコミュニケーション活動」

【RC優秀賞】

- ・ 旭化成アドバンス株式会社
樹脂化学品本部 化学品事業部
九州営業部 宮崎ケミカルセンター
「顧客カード作成」



RC大賞を受賞した花王ロジスティクス株の皆様

日化協安全表彰 受賞事業所の紹介

2026年第50回日化協安全表彰を受賞された各事業所の概要、安全活動の特徴を紹介します。

荒川化学工業株式会社 小名浜工場

◆事業所の概要

当社は、天然樹脂であるロジン(松やに)を主原料とする創業150年の中間素材メーカーとして、製紙用薬品、印刷インキ用樹脂、粘着・接着剤用樹脂、電子材料の中間素材などを多くのお客様に提供しています。小名浜工場は1989年に開設し、東日本における生産拠点としてその一翼を担っています。

◆安全活動の特徴

「安全を生産する工場をつくる」という方針の下、安全の頂を目指す「てっぺん活動」を、“リスクの低減”と“人づくり”を柱として展開しています。私達はその活動を止めることなく、本賞をいただいた今この時こそがスタートラインであると自覚して、さらなる安全の高み(てっぺん)を目指すため、全員が考動・参画・協力して継続、発展させていきます。



安全
最優秀賞

サンレックス工業株式会社

◆事業所の概要

当社は、三井化学株式会社と旭化成株式会社の合弁会社として2023年に発足した、エム・エーライフマテリアルズ株式会社の出資会社となり、主にポリプロピレンを原料とした不織布及びその関連製品等を生産しています。

◆安全活動の特徴

当社では、かつて「生産優先」で労災が散発的に発生していた状況を真摯に受け止め、「安全最優先」への意識改革のために、KYT活動の徹底、安全兼務者による現場フォロー、他社災害の水平展開、体験型教育やノンテクニカルスキル教育の導入、さらには“褒める文化”の醸成など、組織・人・設備の三位一体による安全活動の取組みを継続・推進しています。

本受賞は社員全員の努力の成果であり大きな励みです。今後も安全文化を深化させ、無災害の継続と更なる高みを目指して参ります。



安全
優秀賞

三井化学株式会社 徳山分工場

◆事業所の概要

当工場は瀬戸内海に面した周南コンビナートの一角に位置しており、1962年の操業以来、主として自動車シート・吸遮音材、家具・寝具、冷蔵庫断熱材、建材などに使われるポリウレタン原料(ポリオール)の製造を行っています。

◆安全活動の特徴

当工場では、職場巡視や安全対話を通じた職場環境の改善、労働災害危険源抽出AI“Marsa”を活用しヒヤリハットを共有する「朝の一声活動」、表彰活動などを通じて、協力会社を含む工場一体で安全文化の定着を図っています。これからも社員同士や協力会社員との緊密なコミュニケーションを強みとして、三井化学グループ行動指針である「安全はすべてに優先する」を私たち全員が心に刻み、無事故・無災害の継続に取り組んで参ります。



安全
優秀賞

株式会社レゾナック 五井事業所(野田)

◆事業所の概要

当事業所は、千葉県野田市に位置し、1967年の操業開始以来、接着剤関連製品の開発・製造を行う生産拠点です。

◆安全活動の特徴

当事業所では「安全は全てに優先する」を基本に、マネジメントシステムを基盤とした管理体制と、全員参加型のCDZ(危険ゼロへの挑戦)活動を推進しています。災害事例に基づく教育や公開作業によるリスク抽出、対話型巡視を通じて危険認知力の向上と本質安全化を図り、無事故・無災害の継続に取り組んでいます。今後も様々な活動を通じて、安全文化の醸成を推進していきます。



安全
優秀賞

旭化成ファインケム株式会社 大阪開発センター

◆事業所の概要

当社は1960年創業。機能化学品や医薬関連製品などを展開し、大阪開発センターは製造・開発機能を担う拠点として、生産技術開発を通じた新規事業の創出に貢献しています。

◆安全活動の特徴

当センターでは、全員参加・全方位の安全活動を推進しています。日常業務から非常定常作業、設備変更、トラブル対応まで、さまざまな場面に潜む危険を捉え、部門横断でリスクを抽出・共有・改善することで、安全文化の定着と災害の未然防止につなげています。さらに、これまで進めてきたDXの取り組みを一層強化し、より高いレベルの安全性と保安力の向上を目指していきます。



安全優秀
特別賞

第20回

日化協レスポンシブル・ケア(RC)賞

以下、第20回日化協RC大賞、審査員特別賞、RC優秀賞を受賞された各社の活動内容です。

RC大賞



花王ロジスティクス
株式会社

テーマ：ドライバーが安心安全に働ける持続可能な物流をめざして

受賞理由：花王グループは、社会のサステナビリティに貢献することを使命とし、安全・健康・環境などのRC活動を通じてステークホルダーとの信頼関係の構築に努めてきた。ロジスティクス分野においては、人々の安全と環境に配慮しつつ、製品を確実かつ低コストでお届けすることを使命としている。本活動は、昨今の物流を取り巻く環境変化を踏まえ、花王ロジスティクス(株)が進めている

- ①交通事故撲滅に向けた取り組みの強化
- ②高齢ドライバーを考慮した持続可能な輸送の実現
- ③社会との対話

について取り組み、使命に貢献している。特にこれから課題となる高齢ドライバーへの対策に積極的に取り組み、その内容は他社の参考となる良い活動である。

RC審査員特別賞



住友共同電力
株式会社

テーマ：工事安全パトロールにおける笑顔のコミュニケーション活動

受賞理由：住友共同電力株式会社は、笑顔で対話する工事安全パトロールのほか、協力会社のKYシート添削などを通して安全文化を醸成する活動を実施している。その結果、活動開始以降、火力発電所の設備点検工事において、協力会社の労働災害ゼロを継続している。本活動は、過去に発生した協力会社作業員の重大災害の原因究明において、現場の最前線で働く作業員とのコミュニケーション不足に気づき、健康飲料販売員の相手を思いやる笑顔のコミュニケーションにヒントを得て開始し、さらに地域協力会社との心理的安全性向上、相互協力関係構築にもつながっている。

RC優秀賞



旭化成アドバンス株式会社
樹脂化学品本部 化学品事業部
九州営業部 宮崎ケミカルセンター

テーマ：顧客カード作成

受賞理由：宮崎ケミカルセンターでは、種々殺菌用途の次亜塩素酸ソーダ並びに排水処理用途のポリ塩化アルミニウムの小分製造業務(20kg ポリ缶及び20kg キュービテナー)と配送業務(小分け品及びコンテナタンク)を行っている。特にコンテナタンクを用いる納入先は、大型タンクローリーの入れない小口ユーザーが中心であり、上下水道、食肉・食品、温泉など多岐に渡る。顧客ごとに様々な納入場所と納入方法が存在し、また地方特有の狭い道路や未舗装の道路を通る納入場所も多い。このため、配送業務と納入業務に関する労災発生リスク低減を主目的に顧客毎の「顧客カード」作成に取り組み、課題解決につなげている。

※各社の講演内容の資料は、以下の日化協HPよりご確認ください。
[レスポンシブル・ケア賞受賞歴：JCIA 一般社団法人 日本化学工業協会](#)

RC賞選考事務局コメント

今年度でレスポンシブル・ケア賞は第20回を迎え、これまで121件の活動が表彰されました。

今年度表彰された活動には、以下の特徴があります。一点目は、例年、環境や保安・防災に関する活動テーマが多い中、近年の物流課題を背景に、物流分野に関するテーマが久しぶりに推薦されました。具体的な活動内容は、①高齢運転手の認知力向上対策、②作業手順書の見直しによる荷受け作業の効率化 に取り組んだ内容です。二点目として、今回の受賞会社はいずれも会員企業のグループ会社からの推薦であり、親会社と比較して少ない人数の中で、協力会社と一体となって改善を進められたことが感じられる優れた活動でした。

いずれも時代の変化に応じた重要な課題に対して、積極的に取り組まれた活動内容であり、会員各社の模範となるものです。過去に受賞対象となった活動の紹介プレゼンテーションは、日化協のホームページに掲載しておりますので、この機会にぜひ一度ご覧いただき、貴社のレスポンシブル・ケア活動の活性化にお役立てください。

最後に、日化協レスポンシブル・ケア賞を受賞された各社の皆様に、心よりお祝い申し上げます。今後もこれらの取り組みがさらに発展し、レスポンシブル・ケア活動の一層の向上につながることを期待しております。

第21回 RC賞募集要項(2026年)

レスポンシブル・ケア活動の推進と活性化を目指し、日化協レスポンシブル・ケア委員会は2006年に「レスポンシブル・ケア賞」を創設しました。この賞は、レスポンシブル・ケア活動の普及と充実に貢献した事業所、部門、グループ、個人を対象とし、年度末のRC賞選考事務局の審査を経て、特に優れた活動内容として表彰するものです。2013年度からは「技術賞」「安全賞」と並び、日化協三賞の一つとして夏の定時総会で表彰されている歴史ある賞です。

各RC賞の概要は以下の通りです。

表彰の種類	贈呈品等
大賞	賞状、盾、副賞 30万円
審査員特別賞	賞状、盾、副賞 20万円
優秀賞	賞状、盾、副賞 15万円
努力賞	賞状、副賞 5万円

また、レスポンシブル・ケア賞の評価対象となる活動内容は以下となります。

- ① レスポンシブル・ケアの6コード(保安防災、労働安全衛生、環境保全、コミュニケーション、化学品・製品安全、物流安全)のいずれか、または複数の分野に関する活動
- ② 企業内のレスポンシブル・ケア活動の推進にあたり、率先して実施し、顕著な貢献をした活動
- ③ レスポンシブル・ケアの海外活動に貢献した活動

グループ会社を含む会員会社様におかれましては、日頃の業務を通じ様々なレスポンシブル・ケア活動に取り組んでおられることかと思います。今回のRC賞でも持続可能性を見



据えた物流安全の取り組みや関連会社とのコミュニケーションの推進、デジタル技術を活用したリスク低減活動など、時代の変化に応じた幅広い活動が取り上げられています。RCの課題に関してさまざまな工夫で取り組んだ活動内容を紹介していただけるよう、会社の規模や過去の受賞経験にとらわれずこれからも積極的にご応募をいただければと思います。

今年度も8月からレスポンシブル・ケア賞の募集を開始します。多くの会員会社様およびそのグループ会社様からのご応募をお待ちしております。

もし応募についてご不明な点があれば、下記事務局宛にお気軽にお問い合わせください。

事務局：一般社団法人 日本化学工業協会
レスポンシブル・ケア推進部 担当者 平野
メール宛先：rc_info@jcia-net.or.jp

from Members

RC活動を基盤に、
サステナビリティ経営で持続可能

東ソー株式会社

創業90周年を契機に、
サステナビリティ経営と
持続的成長を加速

——東ソーの歴史と特徴について教えてください。

小田 当社は1935年、山口県周南市で東洋曹達工業として創業しました。ソーダ事業を中心にスタートし、その後セメント事業や臭素事業へと事業領域を拡大しました。1971年には三重県四日市市へ進出し、1987年に社名を現在の東ソーへ変更しました。現在は、食塩電解やナフサ熱分解を起点とした化学品やポリマーなどを扱うチェーン事業と、バイオサイエンスや高機能材料を手掛ける先端事業を二本柱として、多様な製品を世界へ提供しています。企業理念には「私たちの東ソーは、化学の革新を通して、幸せを実現し、社会に貢献する。」を掲げています。そして2025年2月、創業90周年を迎えたことを契機に、持続可能な社会の実現に向けたサステナビリティ基本方針を策定しました。私たちの存在意義(パーパス)を「地球とヒトの快適な暮らしのパートナー」と定め、事業を通じて社会課題の解決に貢献する姿勢を明確にしています。この基本方針には、環境保全や安全・安定操業といった、これまでレスポンシブル・ケア(RC)活動として長年積み重ねてきた取り組みをしっかりと織り込みました。RC活動はサステナビリティ経営を支える基盤であり、企業価値向上につながる重要課題として位置付けています。

また、長期ビジョン「Vision2030」では、2030年度に営業利益1,700億円、GHG排出量を2018年度比30%削減することを目標に掲げています。その実現に



事業所管理監督者(課長、係長対象)安全研修

向け、2025～2027年度には11項目のマテリアリティを設定し、環境・社会・経済の価値を創出する企業への進化を目指しています。未来へ続く地球とヒトの笑顔を守り育み、快適な暮らしを支え続けることが私たちの使命です。

組織の進化と全社監査で深化させる、
歴史あるRC活動

——レスポンシブル・ケア活動の歴史と、現在の取り組みについて教えてください。

小田 当社のRC活動の原点は、1990年に環境影響の適正管理を目的として社内に設置した環境委員会まで遡ります。その後、1995年に日本レスポンシブル・ケア協議会の発起人企業の一員として参画し、本格的なRC活動をスタートしました。活動開始当初は、環境負荷低減や化学物質の安全管理、環境排出物の把握、地域社会とのコミュニケーションなどが中心でしたが、社会環境の変化とともに活動領域も大きく広がっています。現在では、保安防災、自然災害対応、サイバーセキュリティ、品質コンプライアンス、生物多様性、物流安全など19項目をテーマに掲げ、継続的な改善活動を進めています。

さらに、RC活動を全社で推進するため、社長が任命した取締役を委員長とするRC委員会を設置しています。委員会には事業所長や事業部長、研究・技術部門の責任者など経営の中核メンバーが参画し、全社で推進する体制を整えています。各事業所で策定した活動計画や管理状況については、毎年監査を実施し、その結果をRC委員会で審議・承認しています。従来は南陽事業所と四日市事業所を中心とした監査体制でしたが、近年はDXやサイバーセキュリティへの対応が重要になったことから、技術センターやIT統括部も対象に加えた「全社監査」へと発展しました。RC活動の裾野が製造現場だけでなく全社へ広がっていることを象徴する取り組みだと考えています。

また、毎年RCスローガンを掲載したポスターを全社で掲示するほか、活動内容を社内イントラネットで共有するなど、社員一人ひとりへRC活動を浸透させる取り組みも続けています。トップダウンによる推進だけでなく、現場からの改善提案を積極的に取り入れるボトムアップの風土が根付き、全社員が同じ方向を向いて活動できる体制が整っています。

な未来を築く

執行役員

環境保安・品質保証部長

小田 誠さん



地道な改善の積み重ねが、安全・品質向上につながる

——RC活動による成果について教えてください。

小田 RC活動ではPDCAサイクルを強く意識し、毎年、各テーマの達成状況を評価しています。目標に届かなかった項目については、その原因を分析し、翌年度の活動計画へ反映する仕組みを構築しています。事故や労働災害ゼロはもちろん重要な目標ですが、一朝一夕に実現できるものではありません。だからこそ、毎年議論を重ねながら改善を積み重ねることを大切にしています。成果の一例が「物流クレーム・トラブル発生率の低減」です。搬入先情報の整理や荷卸し時の設備改善など、現場で一つひとつ課題を洗い出し、着実に改善を積み重ねてきました。その結果、昨年度は目標としていた70ppm以下を初めて達成することができました。

RC活動の大きな特徴は、経営層から現場まで同じ課題を共有できることです。トップダウンとボトムアップの双方から意見を取り入れることで、設備投資や組織づくり、人材育成にもつながり、継続的な改善活動を支える原動力になっています。

高度な安全技術とDXで、未来のものづくりを支える

——現在、力を入れている取り組みについて教えてください。

小田 化学物質を取り扱う製造プロセスを持つ当社では、安全・安定操業と作業者の安全確保が最重要課題です。そのためには、危険源を正確に把握し、事前に対策を講じるリスクアセスメントの高度化が欠かせません。2020年には技術センター内に「安全技術室」を新設しました。安全工学や化学工学などの専門知識を活用しながら、解析手法の高度化だけでなく、人材育成にも力を入れています。専門教育を修了し、試験に合格したプロセスセーフティエンジニア(PSE)がリスクアセスメントへ参画する仕組みを整備し、安全性向上につなげています。

また、工場におけるDXが進む中で、工場系ネットワークと外部ネットワークとの接続機会が増え、サイバー攻撃への備えも重要性を増しています。そのため2023年には全社組織としてIT統括部を設置し、設備アセスメ

ントによる脆弱性評価やセキュリティ対策の強化を進めています。安全は設備だけでなく情報システムも含めて守る時代になっていると感じています。

サステナビリティ経営を支え、未来へ続く快適な暮らしを守る

——今後のRC活動や環境への取り組みについて教えてください。

小田 近年は世界的に化学物質規制が強化され、国内でも自律的な化学物質管理への移行が進んでいます。当社でも物質管理システムの高度化やAIを活用した情報管理など、新たな仕組みづくりを進めています。さらに、TNFD提言やSSBJ基準への対応を見据え、自然資本や生物多様性への影響評価、情報開示についても取り組みを進めています。地域社会との共生は企業活動の基盤であり、環境保全と事業活動を両立させることが重要だと考えています。

持続可能な社会の実現には、安全や環境だけでなく、企業の成長とのバランスを取りながらRC活動を推進することが不可欠です。そして、その実現には一企業だけでは限界があり、産官学や企業間の連携がますます重要になります。日化協の皆さまには、企業の声を行政や関係機関へ届ける役割をはじめ、引き続きご支援をお願いしたいと思います。当社もエッセンシャル産業を担う企業として社会的責任を果たし、RC活動をサステナビリティ経営の基盤として、未来へ続く快適な暮らしを支えてまいります。



セメント出荷場での物流安全巡視

事業場の概要

花王株式会社 小田原事業場は、神奈川県西部の自然豊かな小田原市に位置し、1960年の操業開始以来、機能転換を経て化粧品工場として発展してきました。2024年には化粧品工場として55周年を迎え、基礎研究からスキンケア・メイクアップ商品の開発までを担う研究所を併設する、花王の化粧品事業を支える重要拠点です。敷地面積は約64,000㎡、協力会社を含め約1,200名が勤務し、生産工場では女性従業員が50%を超えるなど、多様な視点を活かした職場づくりが進んでいます。品質保証や包装業務に加え、原料仕込みや交替勤務にも女性が積極的に参画しており、キャリアアップ支援の充実とともに、生産性と創造性の向上を目指したもののづくりが行われています。こうした取り組みは、化粧品の品質向上だけでなく、働く人々の成長を促す環境づくりにもつながっています。



小田原事業場外観

レスポンスブル・ケア活動

花王は「花王レスポンスブル・ケア方針」のもと、安全・品質・環境に関する8項目について全従業員が主体的に改善活動を進めています。小田原事業場ではISO9001、ISO22716、ISO14001に基づくマネジ



津波避難訓練

メント体制を整え、高い技術力と徹底した品質管理により、安全・安心な化粧品づくりを推進しています。また、地域と連携した取り組みも積極的に展開しており、小田原市との協定に基づく津波避難訓練では、災害時の安全確保と連携強化を図っています。「クリーンさかわ」への参加を通じて河川周辺の美化にも貢献し、環境保全活動を地域とともに進めています。事業場内では食堂残飯を微生物分解処理機で自己処理する仕組みを導入し、年間約5.5トンの廃棄物削減を実現。さらに「いきもの共生事業所」ABINC認証を取得し、絶滅危惧種・小田原メダカの里親制度に参加するなど、生物多様性保全にも力を入れています。これらの活動は、事業場の社会的責任を果たすだけでなく、地域との信頼構築にも寄与しています。

地域とのコミュニケーション

レスポンスブル・ケア活動の一環として、小田原事業場は地域社会との対話と共創にも力を入れています。小田原市内の高齢者を対象とした年1回のメイクアップセミナーは、花王の若手社員と市職員による「若手交流会」から生まれた取り組みで、健康寿命延伸に向けた施策として企画されました。セミナーでは『media kanebo』のメイクアップアーティストが講師を務め、ベースメイクや眉、口紅の実践的な技術を丁寧に指導。参加者が鏡を前に手を動かす時間は心身の活性化を促し、自然なコミュニケーションを生み出します。表情が明るくなる様子や互いを褒め合う声が広がり、「また参加したい」「家族に会いに行きたくなった」といった前向きな声も寄せられています。社員にとっても、化粧の持つ力や社会的価値を再認識する機会となっており、地域とのつながりを深める貴重な経験となっています。今後も地域との信頼関係を育みながら、心身の健康や生活の質向上に貢献する取り組みを継続し、持続可能な社会の実現に寄与していきます。



メイクアップセミナー

事業所の概要

荒川化学工業株式会社は天然樹脂であるロジン(松やに)を主原料とする中間素材メーカーで、今年創業150年を迎えます。小名浜工場は国内生産拠点の一つとして、東北地方太平洋側の最南端に位置する福島県いわき市に、1989年に開設しました。開設当初は1プラントのみで従業員数は約20名でしたが、発展を続けて今では約90名となり、4つのプラントにおいて製紙用薬品、印刷インキ用樹脂、粘着・接着剤用樹脂、電子材料の中間素材などを製造し、東日本を中心に多くのお客様に提供しています。



工場全景

レスポンシブル・ケア活動

小名浜工場は、「安全を生産する工場」をつくる」という方針の下、安全の頂を目指す「てっぺん活動」を、「リスクの低減」と「人づくり」を二本柱として推進しています。

「リスクの低減」では主たる取り組みとして、「言ったのに、やってくれない」をなくすことを狙いにPDCAを回しながら進化を重ねた「新ヒヤリハット活動」や、リスク低減・現場現物意識浸透・コミュニケーション向上につなげる「安全バトンリレー(職場パトロール)」などを実施しています。パトロールやサークル活動などから出された気づきもヒヤリハットに集約することで、全員が工場内のリスクを共有してその改善に取り組んでいます。



出張保安道場(本社にて)

「人づくり」では2019年に保安道場を設立し、「体験を通じて安全スキルを学び、実践につなげる気づきを得る」ことを使命として安全体感・安全基本力(指差呼称・危険予知など)・ノンテクニカルスキルなどの研修を展開しています。自工場での研修、国内外グループ拠点から受け入れての研修、各拠点への出張研修を含めて、これ迄に1,000名以上が参加しています。安全に深く関わるコミュニケーションの面でも、仲間への感謝・感心・感銘・感動を伝えて全員で共有する「グッジョブ! 活動」や「ご安全に挨拶活動」を展開して、相互に声をかけ合える安全の土壌づくりにつなげています。

2021年から、全社として安全に関する専門知識を備えた「安全技術者」の育成と配置を進めており、当事業所でもプロセスリスクアセスメントの中心として安全管理を主導しています。

当社では、保安力向上センター(特定非営利活動法人)による保安力評価を国内4工場が順次受審しています。2023年には当工場内プラントも受審し、安全基盤・安全文化の両面での継続的な改善と整備の取り組みを進めています。これらの取り組みを通じ、2025年には、日化協 安全最優秀賞を受賞しました。

全社で取り組む環境活動として、2025年度のCO₂削減目標を2015年度比で50%削減と掲げ、55.9%削減を達成しました。当工場では、カーボンオフセット都市ガス(COL)と太陽光発電設備の導入を進め、COLで年間約6,000 t-CO₂、太陽光発電設備で年間約94t-CO₂を削減しました。その他の省エネ活動等を含めると約13,000 t-CO₂の削減になり、全社環境目標の達成に大きく寄与しました。

地域とのコミュニケーション

いわき市では毎年2月に「いわきサンシャインマラソン」が開催されており、全国から多くのランナーのみなさんが参加しています。この大会では、東日本大震災からの復興の姿を発信し、復興支援に尽力を頂いた皆様への感謝の気持ちを表現されておりその一環として、フルマラソンコースの清掃活動等を通じ地域のSDGs目標の達成にも積極的に取り組まれています。小名浜工場はその沿道に位置する事業所として、ランナーのみなさんが安心して走っていただけるように、工場からの入出荷車や従業員自家用車の入退場を調整、大会関係者のみなさんに構内トイレを提供するなど、安全・安心な大会となりますよう、毎年協力・応援しています。



いわきサンシャインマラソン

2025年度 地域対話

2025年度の地域対話は山口西地区を皮切りに大分、岡山、川崎、堺・泉北、岩国・大竹の6地区で開催されました。地域の自治会、行政関係者、学校関係者、企業関係者などが参加して事前アンケートで関心の高かったテーマに関する講演や会員企業の活動発表、意見交換会やパネルディスカッションが行われました。参加者の皆様からの質問に対して質疑応答や議論を通じ積極的な対話が行われる場面もありました。日本化学工業協会 RC推進部では今後も引き続き、地域対話を通じて市民と企業の絆を深め、レスポンシブル・ケア活動の推進と安心・安全な社会の実現に向けて貢献できるよう努めてまいります。

山口西地区

2025年11月21日(金)、第15回山口西地区地域対話が開催され、地域の自治会長、学校関係者、官公庁職員、企業関係者など約100名が参加しました。

今回は6年ぶりの対面開催となり、代表幹事会社からの開会挨拶に続き、宇部市 藤崎副市長より来賓のご挨拶をいただきました。

基調講演では、山口大学大学院 樋口教授より、「人の感覚的特性を反映させた環境臭気の評価と制御」と題し、最新の研究内容をご講演いただきました。続いて、宇部市 環境市民環境部 環境政策課 田辺課長より、「宇部市環境審議会と環境保全協定について」と題したご講演をいただきました。また、企業2社(セントラル硝子(株)、日産化学(株))より、各社の事業概要や工場におけるレスポンシブル・ケア活動への取り組みについて詳細な報告がありました。



意見交換会では、司会者として山口大学大学院 山本教授を迎え、パネリストとして山口大学大学院 樋口教授、宇部市 市民環境部 環境政策課 岡係長、ならびに企業3社が登場し、事前アンケートで寄せられた意見・要望への回答、説明を通じた活発な意見交換が行われ、盛会のうちに閉幕しました。

大分地区

2025年11月27日(木)、第14回大分地区地域対話が開催されました。自治会、行政、会員企業などから約160名が参加し、そのうち地域住民の方々が約90名を占めました。会場入口には各企業のパネルが展示され、各社の活動や製品について、企業担当者が地域住民の皆様へ説明を行っていました。基調講演では、大分地方気象台 南海トラフ地震防災官 高濱様より、「地震と防災」をテーマにご講演いただきました。

続いて、レゾナック・ガスプロダクツ(株)大分工場より、会社紹介とともに、液化炭酸ガスの用途や、他工場で発生した炭酸ガスリサイクルの取り組みについて、わかりやすい説明がありました。

意見交換会では、ファシリテーターとして高圧ガス保安協



会 元理事 安田様を迎え、地震・津波対策、悪臭・ばい煙対策、排水・廃棄物対策、危険物・毒物漏洩対策などについて、企業側から丁寧な説明と回答が行われました。企業側からは、有事の際における迅速な情報発信について、今後も強化していくとの決意が示され盛会のうちに閉幕しました。

岡山地区

2026年1月21日(水)、第14回岡山地区地域対話が倉敷市内で開催され、地域の自治会、行政関係者、会員企業など84名が参加しました。

冒頭に、三菱ケミカル(株)岡山事業所長による開会挨拶の後、同社のRC活動への取り組みについて説明がありました。続いて、北海道大学の竹田教授から「事故・災害に備える環境コミュニケーション」という題した基調講演があり、自然災害に起因した化学物質漏洩事故の増加に対し、企業と地域住民が継続的な対話の場を持つ重要性について説明されました。

続いて、こくみん共済coopの防災士である大束氏が、「防災学習会」と題する講演を行い、火災、水害、地震発生時の避難方法の理解や、地域コミュニティの重要性について解説しました。

パネルディスカッションでは、化学工場における火災・津



波対策や地域防災訓練との連携強化、家族や地域内のコミュニケーションの重要性、防災活動の継続と社会対話の推進などが今後の課題として議論されました。

最後に、旭化成水島製造所長による閉会挨拶があり、盛会のうちに終了しました。

川崎地区

2026年1月31日(土)、第15回川崎地区地域対話が開催され、地域の自治会、行政関係者、学校関係者、企業関係者など約115名が参加しました。

基調講演では、川崎市 危機管理本部 危機対策部長の牛島様より、「南海トラフ地震に備える」をテーマにご講演をいただきました。

また、会員企業2社(花王㈱、日本触媒㈱)からは、自然災害や大気汚染への対応・CO₂削減など環境保全への取り組み、ならびに地球温暖化対策に関する企業の取り組みに関する発表が行われました。

パネルディスカッションでは、企業側から事前アンケートへ寄せられた質問に対する回答を行うとともに、自治会・行政側からの質問について討議が行われ、盛会のうちに閉会しました。



堺・泉北地区

2026年2月5日(木)、第15回堺・泉北地区地域対話が開催され、地域の自治会、行政関係者、企業関係者など約60名が参加しました。

工場見学では、DIC㈱堺工場内をバスで巡り、保安防災設備や環境保全設備などを見学しました。対話会では、DIC堺工場長による開会挨拶に続き、堺工場の紹介とともに、環境保全への取り組みや保安防災について説明がありました。続いて、三井化学から、大阪工場の紹介、ならびに工場におけるRC活動について説明がありました。企業説明に対する質疑応答では、参加者から多数の質問が寄せられました。また、ロビーには加盟各社のRC活動を紹介するパネル展示が設置され、企業担当者から市民の方々へ各企業のRC活動をわかりやすく紹介しておられました。

次いで、立石市危機管理課から、臨海部の防災について講演があり、地震・津波への取り組みや重要事項について紹介



が行われるとともに、後発地震注意情報に関するDVDの上映が行われ、盛会のうちに閉会しました。

岩国・大竹地区

2026年2月6日(金)、第15回岩国・大竹地区地域対話が開催され、自治会、行政関係者、会員企業など約80名が参加しました。

帝人岩国事業所の工場見学後、地域対話集会を開催しました。集会では、事前アンケートで寄せられた意見・要望をできるだけ反映した内容としました。

基調講演では、山口県気候変動適応センター専門研究員の元永様より、気候変動対策(緩和策・適応策)についてご講演いただきました。

また、企業2社(三井化学㈱、ダイセル㈱)からは、環境パフォーマンスや環境に配慮した製品開発について発表がありました。

パネルディスカッションでは、参加者とパネラーとの活発な質疑応答が行われ、盛会のうちに閉会しました。



2025年度 東京産業安全塾



修了式の集合写真

日本化学工業協会、石油化学工業協会、および石油連盟は3団体共催にて「東京産業安全塾」を毎年開催しています。2025年度の東京産業安全塾は昨年10月14日に開講し、約6カ月にわたる講義を経て、2026年3月10日に修了式が執り行われました。

「東京産業安全塾」は、石油・化学産業において保安・労働安全を理解できる将来の経営者や管理者、安全推進の専門家の育成を目的に2014年に開講しました。過去にはコロナ禍の影響も受け、オンラインのみの開催としていた期間もありましたが、2022年度以降は、受講者間の交流の機会を増やすことができ、また各職場からも受講しやすいよう、対面形式とオンライン形式を併用したハイブリッド形式で開催しています。

2025年度は、共催3団体の19社から塾生24名が参加し、全11回（うち対面形式は7回、オンライン形式は4回）開催し、15の講義と3回のグループ討議を行いました。

講義は、日頃3団体の安全・保安

活動をご指導いただいている先生方や関係省庁の方を講師としてお招きし、テーマとして産業安全の基本、安全問題の背景、産業安全に向けての企業の取り組み、安全教育・啓発等のほか、今年度は「組織力を高める人材育成を根幹とした安全マネジメント」の講義を新設しました。各講義後は、提示された課題に対して各人でレポートを作成し、レポート全体に対する講師からのフィードバックコメントを付けて塾生間で共有しました。

一方のグループ討議では、1回目を塾生間のコミュニケーション機会として「所属する組織の保安・安全に関する課題」をテーマとして行いました。2回目からはグループ替え

をし、最終日の発表会に向けて「現在の産業安全の課題に対して企業としてなすべきこと」や、「業界・行政・社会に対する期待」について活発な議論が行われました。発表会では各グループからの発表を行い、活発な質疑応答を通じて、塾生の将来に向けた視野の拡大と参加者間での交流を図ることができました。

今後、塾生の皆さまが、今回得られた知識や経験を糧に産業安全に大きく貢献されることを講師・運営委員一同心より願っております。

「東京産業安全塾」の受講生募集については、毎年7月ごろに「安環ネット」からご案内しており、2026年度は9月30日から開催いたします。



産業安全塾の講義の様子

レスポンシブル・ケア リーダーシップグループ(RCLG)春季会議

レスポンシブル・ケア リーダーシップグループ(RCLG)は、国際化学工業協会協議会(ICCA)内でRC活動の推進や、各国RC協会を通じた世界の化学業界の意見収集などを担当している組織です。現在はBASFのSteven De Regter氏が議長、住友化学(株)の佐々木義純氏が副議長を務めています。

RCLGでは、毎年春と秋の年2回、RCLG加盟協会の所属国で各協会の代表者を招集し、2日間の対面会議を開催しています。2026年度の春季対面会議は、ドイツ化学工業協会(VCI)をホストとして、4月29日～30日にドイツのフランクフルトで開催されました。

1日目は、自己評価ツールの翻訳や今後の展開予定、欧州で取り組みが進む「製品デジタルパスポート(DPP)」およびドイツ政府が支援する化学物質のデータ共有基盤「Chem-X(ケム・エックス)」の最新動向、さらには「Global Framework on Chemicals(GFC)」の現状などが紹介されました。現在、GFCには3つの野心的目標が掲げられていますが、RCLGは能力開発(Capacity Building: CB)における目標「2030年までに30カ国が効果的な化学物質管理システムを導入できるよう支援する」の達成を、RCLGの広範なネットワークを有効活用して支援していく方針です。また、午後の対面限定セッションでは「RCの未来と価値創造」をテーマに、今後

のRCLGとしての活動の方向性に関する議論が行われました。

2日目は、RCLGが継続して取り組んでいるCB活動を中心に議論が行われました。具体的には、前述のGFC目標に関連する「30x30計画」との連携、RCLG主導のCB活動である「CARE PJ」の対象国にエジプトが選定されたこと、各国のパフォーマンス報告データの活用、コミュニケーション等について意見を交わしました。今年は、ICCAのRC活動の総括と上記のパフォーマンスデータの内容をまとめた「RCレポート」がRCLGから発行される予定です。

また、対面限定セッションでは、サプライチェーンの透明性向上に関連して、SDSの有効活用に関する議論が行われました。

現在RCLGには、国際連合環境計画や欧州が主導する環境や化学品法規制の発効に備えて、化学業界の意見を取りまとめや業界の意向に沿ったガイドラインを提案していくことが強く求められており、関連した議論が活発化しています。



集合写真

レスポンシブル・ケアロゴマークの 更新に関して

日本化学工業協会RC推進部は、化学産業の持続可能な成長と社会的責任を果たすことを目的として、環境・健康・安全の確保、および社会との対話といった各種のRC活動を展開しています。

この度、カナダでのRC活動の開始から40周年となることを受けて、ICCAでRCロゴマークの更新が行われました。これを受けて、日化協でもRCロゴマークについても更新を行うこととしました。

新たなRCロゴでは、色調、図案、文字デザインを刷新するとともに、英文スローガンの「Driving Safety and sustainability」の対訳として「安全とサステナビリティの推進」を採用しました。日化協では、これからもこの新ロゴマークの活用を通じ、RC活動のさらなる認知度向上・活性化に努めてまいります。



レスポンシブル・ケア
安全とサステナビリティの推進

☆会員動向 (会員数：126 社 2026 年 7 月末現在)

入会

- ▶ ARCHIMED Japan 合同会社 (1 月 1 日付)
- ▶ Asue 株式会社 (4 月 1 日)

☆行事予定

- 8 月 24 日 安全シンポジウム (ハイブリッド)
- 9 月 10～11 日 リスクコミュニケーション講座
- 10 月 14～15 日 RCLG 定期会議 アルゼンチン ブエノスアイレス

表紙写真の説明

レーマー広場 (Römerberg)

レーマー広場 (Römerberg) は、ドイツ・ヘッセン州フランクフルト・アム・マイン旧市街の中心にある歴史的な広場です。木組みの家々や旧聖ニコライ教会が並ぶ景観は、第二次世界大戦後に忠実に再建され、中世の自由都市として繁栄したフランクフルトの面影を今に伝えています。一方で、この広場から少し歩けば欧州有数の金融ビル群や文豪ゲーテの生家、さらに中央駅周辺では多様な文化や人々が行き交う国際都市としての一面を見ることができます。

編集後記

RCLG 会議に出席するため、ドイツ フランクフルトへ行ってまいりました。4 月末の日本からのフライトは、ロシアやウクライナ、中東などの緊迫地域を避けるため、アラスカ半島からグリーンランド付近を大きく回り込む独特の航路でした。遠回りを経てようやく到着したフランクフルトを中心とするライン・マイン地域は、化学産業の重要拠点でもあり、今なお人・モノ・情報が交錯する欧州の結節点であり続けています。滞在中にレーマー広場から移民の多い中央駅区域まで歩いたわずかな時間の中だけでも、中世から現代へと脈々と続くヨーロッパの歴史を垣間見たような気がしました。

これまで皆様にお届けしてまいりました「レスポンシブル・ケアニュース」でございますが、誠に勝手ながら今年度から冊子体での送付を廃止させていただくとともに、発行頻度を年 2 回 (春夏号、秋冬号) に改めることとしました。

長らくご愛読いただいた皆様にはご不便をおかけいたしますが、今後、レスポンシブル・ケア ニュースの最新号につきましては、日化協公式サイト内にて、バックナンバーを含め公開しておりますので下記リンクからご参照ください。

▶ <https://www.nikkakyo.org/publications/rc-news>